

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成29年8月10日
【四半期会計期間】	第94期第1四半期(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)
【会社名】	北海道電力株式会社
【英訳名】	Hokkaido Electric Power Company, Incorporated
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 真弓明彦
【本店の所在の場所】	札幌市中央区大通東1丁目2番地
【電話番号】	011(251)1111
【事務連絡者氏名】	経理部決算グループ グループリーダー 鈴木淳一
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内1丁目6番5号 北海道電力株式会社 東京支社
【電話番号】	03(3217)0861
【事務連絡者氏名】	業務グループ グループリーダー 吉本岳史
【縦覧に供する場所】	北海道電力株式会社 旭川支店 (旭川市4条通12丁目1444番地の1) 北海道電力株式会社 北見支店 (北見市北8条東1丁目2番地1) 北海道電力株式会社 札幌支店 (札幌市中央区大通東1丁目2番地) 北海道電力株式会社 岩見沢支店 (岩見沢市9条西1丁目12番地の1) 北海道電力株式会社 小樽支店 (小樽市富岡1丁目9番1号) 北海道電力株式会社 釧路支店 (釧路市幸町8丁目1番地) 北海道電力株式会社 帯広支店 (帯広市西5条南7丁目2番地の1) 北海道電力株式会社 室蘭支店 (室蘭市寿町1丁目6番25号) 北海道電力株式会社 苫小牧支店 (苫小牧市新中野町3丁目8番7号) 北海道電力株式会社 函館支店 (函館市千歳町25番15号) 証券会員制法人札幌証券取引所 (札幌市中央区南1条西5丁目14番地の1) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) (注) 上記の内、旭川、北見、札幌、岩見沢、小樽、釧路、帯広、室蘭、 苫小牧、函館の各支店は金融商品取引法の規定による備置場所では ありませんが、投資者の便宜を図るため備え置きます。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第93期 第1四半期 連結累計期間	第94期 第1四半期 連結累計期間	第93期
会計期間	自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 6月30日	自 平成29年 4月 1日 至 平成29年 6月30日	自 平成28年 4月 1日 至 平成29年 3月31日
売上高 (百万円)	169,685	173,058	702,776
経常利益 (百万円)	15,779	3,482	12,603
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	12,945	2,659	8,793
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	12,285	2,084	10,891
純資産額 (百万円)	201,423	199,139	200,022
総資産額 (百万円)	1,806,242	1,870,643	1,829,539
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	60.82	10.77	34.09
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	10.56	10.06	10.32

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
- 2 売上高には、消費税等は含まれていない。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。
- 4 当第1四半期連結会計期間からの連結納税制度適用を契機に、四半期連結累計期間の課税所得に対応した税金費用をより合理的かつ適切に算定するため、税金費用の計算について変更を行っている。当該会計方針の変更は遡及適用され、前第1四半期連結累計期間については遡及適用後の数値を記載している。

#### 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はない。  
 また、主要な関係会社に異動はない。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等はない。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はない。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等はない。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期連結累計期間に比べ33億72百万円増の1,730億58百万円となり、これに営業外収益を加えた経常収益は、26億24百万円増の1,738億73百万円となった。

一方、経常費用は、前年同四半期連結累計期間に比べ149億21百万円増の1,703億91百万円となった。

以上により、経常利益は、前年同四半期連結累計期間に比べ122億97百万円減の34億82百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、102億85百万円減の26億59百万円となった。

セグメントの業績(内部取引消去後)は、次のとおりである。

#### 電気事業

当第1四半期連結累計期間の販売電力量は、他事業者への契約切り替えの影響などにより、前年同四半期連結累計期間に比べ8.3%の減少となった。

当第1四半期連結累計期間の収支については、収入面では、販売電力量の減少はあったが、燃料価格の上昇による燃料費調整制度の影響や再生可能エネルギーの固定価格買取制度の影響などにより、売上高は、前年同四半期連結累計期間に比べ23億44百万円増の1,662億54百万円となった。支出面では、経営全般にわたる徹底した効率化に継続的に取り組んだが、燃料価格の上昇や前年の豊水の反動による燃料費の増加などにより、営業費用は、前年同四半期連結累計期間に比べ140億92百万円増の1,603億5百万円となった。

以上により、営業利益は、前年同四半期連結累計期間に比べ117億48百万円減の59億49百万円となった。

#### その他

当第1四半期連結累計期間の収支については、収入面では、建設業の売上が増加したことなどにより、売上高は、前年同四半期連結累計期間に比べ10億28百万円増の68億4百万円となった。支出面では、建設業の売上原価の増加などにより、営業費用は、前年同四半期連結累計期間に比べ9億15百万円増の57億80百万円となった。

以上により、営業利益は、前年同四半期連結累計期間に比べ1億13百万円増の10億24百万円となった。

(参考情報)

## 需給実績

種別		当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	前年同四半期比(%)
発電電力量	水力発電電力量 (百万kWh)	1,126	79.7
	火力発電電力量 (百万kWh)	3,886	107.6
	原子力発電電力量 (百万kWh)	-	-
	新エネルギー等発電電力量 (百万kWh)	36	103.4
	融通・他社受電電力量 (百万kWh)	1,746 526	88.6 202.0
	揚水発電所の揚水用電力量 (百万kWh)	64	109.1
	合計 (百万kWh)	6,204	92.4
損失電力量等 (百万kWh)	309	108.0	
販売電力量 (百万kWh)	5,895	91.7	
出水率(自流) (%)	98.6	-	

- (注) 1 他社受電電力量には、連結子会社の北海道パワーエンジニアリング㈱及びほくでんエコエナジー㈱からの受電電力量が含まれている。
- 2 融通・他社受電電力量の上段は受電電力量、下段は送電電力量を示す。
- 3 融通・他社受電電力量には、期末日において未確定であるインバランス電力量は含んでいない。
- 4 揚水発電所の揚水用電力量とは貯水池運営のための揚水用に使用する電力である。
- 5 販売電力量の中には、自社事業用電力量13百万kWhを含んでいる。
- 6 出水率は、自社の昭和61年度から平成27年度までの当該累計期間の30ヶ年平均に対する比である。

## 販売電力量及び料金収入

種別		当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	前年同四半期比(%)
販売電力量 (百万kWh)	低圧	2,890	95.3
	高圧・特別高圧	3,005	88.6
	合計	5,895	91.7
	融通・他社販売	416	218.3
料金収入 (百万円)	電灯料	65,271	99.3
	電力料	70,412	95.0
	電灯電力合計	135,684	97.0
	融通・他社販売	5,293	241.1

(注) 上記料金収入には消費税等は含まれていない。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における資産は、減価償却による電気事業固定資産の減少はあったが、石狩湾新港発電所1号機新設工事などの固定資産仮勘定の増加や現金及び預金の増加などにより、前連結会計年度末に比べ411億4百万円増の1兆8,706億43百万円となった。

負債は、工事及び委託に係る未払債務の支払いなどはあったが、有利子負債の増加などにより、前連結会計年度末に比べ419億87百万円増の1兆6,715億3百万円となった。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上はあったが、配当金の支払いやその他有価証券評価差額金の減少などにより、前連結会計年度末に比べ8億82百万円減の1,991億39百万円となった。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末の自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ0.2ポイント減少し10.1%となった。

(3) 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等

当第1四半期連結累計期間において、ほくでんグループの経営方針、経営環境及び対処すべき課題等について、重要な変更はない。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費の総額は、6億60百万円である。

(5) 設備の新設、除却等の計画

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設、除却等のうち、当第1四半期連結累計期間に運用を開始した設備は次のとおりである。

電力流通設備

(送電)

送電線路名	区 間	電圧(kV)	亘長(km)	回路数	着工年月	運用開始年月
今金中里支線 (新設)	函館幹線No.299 ~今金中里(変)	187	0.1	1	平成29年3月	平成29年5月

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	495,000,000
A種優先株式	500
計	495,000,000

(注) 当社の各種類株式の発行可能種類株式総数の合計は495,000,500株であるが、上記の「計」の欄では、当社定款に定める発行可能株式総数495,000,000株を記載している。なお、当社が、実際に発行できる株式の総数は、発行可能株式総数の範囲内である。また、発行可能種類株式総数の合計と発行可能株式総数の一致については、会社法上要求されていない。

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	215,291,912	215,291,912	札幌証券取引所 東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株である。
A種優先株式	470	470	非上場	単元株式数は1株である。 (注)
計	215,292,382	215,292,382		

(注) A種優先株式の内容

##### (1) 優先配当金

###### A種優先配当金

当社は、剰余金の配当（A種優先中間配当金（に定義する。以下同じ。）を除く。）を行うときは、当該配当に係る基準日現在の株主名簿に記録された最終のA種優先株式を有する株主（以下「A種優先株主」という。）又はA種優先株式の登録株式質権者（以下「A種優先登録株式質権者」という。）に対し、普通株式を有する株主（以下「普通株主」という。）又は普通株式の登録株式質権者（以下「普通登録株式質権者」という。）に先立ち、A種優先株式1株につきに定める額の剰余金（以下「A種優先配当金」という。）を配当する。ただし、当該配当に係る基準日を含む事業年度に属する日を基準日として、A種優先配当金の全部又は一部の配当（に定める累積未払A種優先配当金の配当を除き、A種優先中間配当金を含む。）がすでに行われているときは、かかる配当の累積額を控除した額とする。

###### A種優先配当金の額

A種優先配当金の額は、(i)平成27年3月31日に終了する事業年度から平成31年3月31日に終了する事業年度までの各事業年度に属する日を基準日とする場合は、1株につき3,800,000円とし、(ii)平成32年3月31日に終了する事業年度に属する日を基準日とする場合は、1株につき5,464,384円とし、(iii)平成33年3月31日に終了する事業年度以降の事業年度に属する日を基準日とする場合は1株につき6,300,000円とする（ただし、A種優先株式につき、株式の分割、株式の併合、株式無償割当て又はこれに類する事由があった場合には、適切に調整される。以下同じ。）。

###### 累積条項

ある事業年度に属する日を基準日として、A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対して支払う1株当たり剰余金の配当（以下に定める累積未払A種優先配当金の配当を除き、A種優先中間配当

金を含む。)の額の合計額が当該事業年度に係るA種優先配当金の額に達しないときは、その不足額は、当該事業年度の翌事業年度の初日(同日を含む。)以降、実際に支払われた日(同日を含む。)まで、(i)平成31年7月31日までは年率3.8%、(ii)平成31年8月1日以降は年率6.3%で1年毎の複利計算により累積する。なお、当該計算は、1年を365日とした日割計算により行うものとし、除算は最後に行い、円位未満小数第1位まで計算し、その小数第1位を四捨五入する。累積した不足額(以下「累積未払A種優先配当金」という。)については、A種優先配当金、A種優先中間配当金及び普通株主若しくは普通登録株式質権者に対する配当金に先立って、これをA種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対して支払う。

#### 非参加条項

A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対しては、A種優先配当金を超えて剰余金を配当しない。ただし、当社が行う吸収分割手続の中で行われる会社法第758条第8号口若しくは同法第760条第7号口に規定される剰余金の配当又は当社が行う新設分割手続の中で行われる同法第763条第12号口若しくは同法第765条第1項第8号口に規定される剰余金の配当についてはこの限りではない。

#### A種優先中間配当金

当社は、毎年9月30日を基準日として剰余金の配当を行うときは、毎年9月30日現在の株主名簿に記録された最終のA種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対し、普通株主又は普通登録株式質権者に先立ち、A種優先株式1株につき当該基準日の属する事業年度におけるA種優先配当金の額の2分の1に相当する額(1円に満たない金額は切り上げる。)(以下「A種優先中間配当金」という。)を配当する。ただし、平成31年9月30日を基準日とするA種優先中間配当金は2,323,014円とする。

## (2) 残余財産の分配

当社は、残余財産を分配するときは、A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対し、普通株主又は普通登録株式質権者に先立ち、A種優先株式1株当たりの残余財産分配価額として、以下の算式に基づいて算出される額(以下「基準価額」という。)を支払う。ただし、A種優先株式につき、株式の分割、株式の併合、株式無償割当て又はこれに類する事由があった場合には、適切に調整される。

#### (基準価額算式)

1株当たりの残余財産分配価額

$$= 100,000,000円 + 累積未払A種優先配当金 \\ + 前事業年度未払A種優先配当金 + 当事業年度未払優先配当金額$$

上記算式における「累積未払A種優先配当金」は、残余財産分配がなされる日(以下「残余財産分配日」という。)を実際に支払われた日として、(1)に従い計算される額の合計額とし、「前事業年度未払A種優先配当金」は、基準日の如何にかかわらず、残余財産分配日の属する事業年度の前事業年度(以下(2)において「前事業年度」という。)に係るA種優先配当金のうち、残余財産分配日までに実際に支払われていないA種優先配当金がある場合における当該前事業年度に係るA種優先配当金の不足額(ただし、累積未払A種優先配当金に含まれる場合を除く。)とし、また、「当事業年度未払優先配当金額」は、残余財産分配日の属する事業年度の初日(同日を含む。)以降、残余財産分配日(同日を含む。)までの期間について適用あるA種優先配当金の額(残余財産分配日が平成32年3月31日に終了する事業年度に属する場合、事業年度の初日(同日を含む。)から平成31年7月31日までは3,800,000円、平成31年8月1日以降は6,300,000円を意味する。)を当該期間の実日数で日割計算して算出される金額(ただし、残余財産分配日が平成27年3月31日に終了する事業年度に属する場合は、3,800,000円)から、残余財産分配日の属する事業年度の初日(同日を含む。)以降に支払われたA種優先中間配当金がある場合におけるA種優先中間配当金の額を控除した金額とする。

なお、当該計算は、1年を365日とした日割計算により行うものとし、除算は最後に行い、円位未満小数第1位まで計算し、その小数第1位を四捨五入する。

A種優先株主又はA種優先登録株式質権者に対しては、上記のほか残余財産の分配を行わない。

(3) 議決権

A種優先株主は、株主総会において議決権を有しない。

(4) 種類株主総会における決議

当社が会社法第322条第1項各号に掲げる行為をする場合においては、法令に別段の定めのある場合を除き、A種優先株主を構成員とする種類株主総会の決議を要しない旨、当社定款に規定している。

(5) 株式の併合又は分割、募集株式の割当て等

当社は、法令に定める場合を除き、A種優先株式について株式の分割又は併合を行わない。当社は、A種優先株主には、募集株式の割当てを受ける権利又は募集新株予約権の割当てを受ける権利を与えず、また、株式無償割当て又は新株予約権無償割当てを行わない。

(6) 金銭を対価とする取得請求権

A種優先株主は、当社に対し、平成26年8月1日以降いつでも、金銭を対価としてA種優先株式の全部又は一部を取得することを請求することができる（当該請求をした日を、以下「金銭対価取得請求権取得日」という。）。当社は、この請求がなされた場合には、A種優先株式の全部又は一部を取得すると引換えに、金銭対価取得請求権取得日における会社法第461条第2項所定の分配可能額を限度として、法令上可能な範囲で、金銭対価取得請求権取得日に、A種優先株主に対して、次に定める取得価額の金銭の交付を行うものとする。ただし、分配可能額を超えてA種優先株主から取得請求があった場合、取得すべきA種優先株式は取得請求される株数に応じた比例按分の方法により決定する。

A種優先株式1株当たりの取得価額は、(2)に定める基準価額算式に従って計算される。なお、(6)において取得価額を算出する場合は、(2)に定める基準価額の計算における「残余財産分配日」を「金銭対価取得請求権取得日」と読み替えて、基準価額を計算する。

(7) 金銭を対価とする取得条項

当社は、平成26年8月1日以降の日で、当社の取締役会が別に定める日が到来したときは、当該日において、A種優先株主又はA種登録株式質権者の意思にかかわらず、法令上可能な範囲で、次に定める取得価額の金銭の交付と引換えにA種優先株式の全部又は一部を取得することができる（以下当該取得を行う日を「金銭対価取得条項取得日」という。）。なお、一部取得するときは、比例按分又はその他当社の取締役会が定める合理的な方法による。

A種優先株式1株当たりの取得価額は、(2)に定める基準価額算式に従って計算される。なお、(7)において取得価額を算出する場合は、(2)に定める基準価額の計算における「残余財産分配日」を「金銭対価取得条項取得日」と読み替えて、基準価額を計算する。

(8) 株券等の譲渡制限

当社とA種優先株式の割当先である株式会社日本政策投資銀行（以下「割当先」という。）との間で締結された平成26年4月30日付の投資契約において、割当先との間で、金銭を対価とする取得請求権の行使が可能となるまでの間は、当社の事前の承諾無く本優先株式の全部又は一部の譲渡ができない旨、合意している。

(9) 議決権を有しないこととしている理由

資本増強にあたり、既存株主への影響を考慮したものである。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし



(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日		215,292,382		114,291		

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はない。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できず、記載することができないことから、直前の基準日である平成29年3月31日現在で記載している。

【発行済株式】

平成29年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	A種優先株式 470		1(1) 「発行済株式」の内容の記載を参照
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 9,763,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 204,526,600	2,045,266	
単元未満株式	普通株式 1,001,412		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	215,292,382		
総株主の議決権		2,045,266	

- (注) 1 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式である。  
2 「完全議決権株式(その他)」欄に、証券保管振替機構名義の株式2,000株(議決権20個)が含まれている。  
3 「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式56株及び当社所有の自己株式8株が含まれている。

【自己株式等】

平成29年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 北海道電力株式会社	札幌市中央区大通東1丁目2番地	9,763,900		9,763,900	4.54
計		9,763,900		9,763,900	4.54

- (注) 1 株主名簿上は当社名義となっているが、実質的に所有していない株式が100株(議決権1個)あり、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」欄に含まれている。  
2 平成29年6月30日現在における自己株式は、9,765,272株(単元未満株式を含む。)である。

2 【役員 の 状況】

該当事項なし

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠し、「電気事業会計規則」(昭和40年通商産業省令第57号)に準じて作成している。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人の四半期レビューを受けている。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>資産の部</b>		
固定資産	1,624,832	1,628,001
電気事業固定資産	1,070,863	1,058,555
水力発電設備	226,540	223,691
汽力発電設備	75,534	73,103
原子力発電設備	210,736	209,234
送電設備	158,576	156,678
変電設備	77,359	75,921
配電設備	277,806	276,836
業務設備	39,065	37,975
その他の電気事業固定資産	5,243	5,113
その他の固定資産	55,132	55,381
固定資産仮勘定	231,716	245,591
建設仮勘定	231,352	244,799
除却仮勘定	364	792
核燃料	162,767	165,035
加工中等核燃料	162,767	165,035
投資その他の資産	104,352	103,436
長期投資	56,889	55,851
退職給付に係る資産	12,572	12,837
繰延税金資産	32,987	32,950
その他	3,661	3,582
貸倒引当金（貸方）	1,758	1,785
流動資産	204,706	242,642
現金及び預金	88,027	118,086
受取手形及び売掛金	57,037	62,128
たな卸資産	36,508	40,496
繰延税金資産	5,744	4,966
その他	18,187	17,687
貸倒引当金（貸方）	798	722
合計	1,829,539	1,870,643

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
<b>負債及び純資産の部</b>		
<b>負債の部</b>		
固定負債	1,247,515	1,230,398
社債	611,900	595,000
長期借入金	505,146	505,712
退職給付に係る負債	38,875	38,305
資産除去債務	77,773	78,252
その他	13,820	13,128
流動負債	379,770	439,178
1年以内に期限到来の固定負債	187,226	272,648
短期借入金	52,370	52,390
コマーシャル・ペーパー	-	10,000
支払手形及び買掛金	40,816	31,099
未払税金	7,388	17,620
その他	91,968	55,419
特別法上の引当金	2,231	1,927
湯水準備引当金	2,231	1,927
負債合計	1,629,516	1,671,503
<b>純資産の部</b>		
株主資本	187,727	187,571
資本金	114,291	114,291
資本剰余金	46,750	46,750
利益剰余金	44,875	44,721
自己株式	18,190	18,191
その他の包括利益累計額	1,132	564
その他有価証券評価差額金	4,391	4,007
退職給付に係る調整累計額	3,258	3,443
非支配株主持分	11,162	11,003
純資産合計	200,022	199,139
合計	1,829,539	1,870,643

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
営業収益	169,685	173,058
電気事業営業収益	163,909	166,254
その他事業営業収益	5,776	6,804
営業費用	151,077	166,085
電気事業営業費用	146,212	160,305
その他事業営業費用	4,865	5,780
営業利益	18,608	6,973
営業外収益	1,563	814
受取配当金	414	332
受取利息	289	2
その他	859	480
営業外費用	4,392	4,305
支払利息	3,869	3,752
持分法による投資損失	83	68
その他	439	484
四半期経常収益合計	171,249	173,873
四半期経常費用合計	155,469	170,391
経常利益	15,779	3,482
過水準備金引当又は取崩し	540	304
過水準備金引当	540	-
過水準備引当金取崩し(貸方)	-	304
税金等調整前四半期純利益	15,239	3,786
法人税、住民税及び事業税	1,245	14
法人税等調整額	1,111	1,116
法人税等合計	2,357	1,131
四半期純利益	12,881	2,655
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	63	3
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,945	2,659

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	12,881	2,655
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	286	380
退職給付に係る調整額	310	190
その他の包括利益合計	596	570
四半期包括利益	12,285	2,084
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,342	2,091
非支配株主に係る四半期包括利益	57	6

## 【注記事項】

(会計方針の変更等)

(会計方針の変更)

税金費用の計算は、従来、四半期会計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該実効税率を乗じて算定する方法で計算していたが、当第1四半期連結会計期間からの連結納税制度適用を契機に、四半期連結累計期間の課税所得に対応した税金費用をより合理的かつ適切に算定するため、年度決算と同様の方法による税金費用の計算における簡便的な方法に変更している。

この変更に伴い、遡及適用した結果、前第1四半期連結累計期間の法人税等が2,032百万円増加し、四半期純利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益が同額減少している。なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載している。

(追加情報)

(連結納税制度の適用)

当第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用している。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

(1) 日本原燃株式会社

社債及び㈱日本政策投資銀行ほかからの借入金に対する保証債務

前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
43,214百万円	42,892百万円

(2) 従業員

財形住宅融資による㈱みずほ銀行ほかからの借入金に対する連帯保証債務

前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
8,292百万円	7,646百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していない。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりである。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
減価償却費	20,985百万円	20,122百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,027	5	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金
	A種優先株式	3,657	7,781,358	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

(注) A種優先株式の1株当たり配当額には、平成27年3月期累積未払配当金3,981,358円が含まれている。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,027	5	平成29年3月31日	平成29年6月29日	利益剰余金
	A種優先株式	1,786	3,800,000	平成29年3月31日	平成29年6月29日	利益剰余金



(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他	計	調整額(注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
	電気事業				
売上高					
外部顧客への売上高	163,909	5,776	169,685	-	169,685
セグメント間の内部売上高 又は振替高	501	17,342	17,844	17,844	-
計	164,411	23,118	187,530	17,844	169,685
セグメント利益又は セグメント損失( )	18,450	7	18,443	165	18,608

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額165百万円は、セグメント間取引消去によるものである。

2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント	その他	計	調整額(注1)	四半期連結 損益計算書 計上額(注2)
	電気事業				
売上高					
外部顧客への売上高	166,254	6,804	173,058	-	173,058
セグメント間の内部売上高 又は振替高	515	18,094	18,610	18,610	-
計	166,770	24,898	191,669	18,610	173,058
セグメント利益	6,243	517	6,761	211	6,973

(注) 1 セグメント利益の調整額211百万円は、セグメント間取引消去によるものである。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っている。

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成28年 4 月 1 日 至 平成28年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成29年 4 月 1 日 至 平成29年 6 月30日)
1 株当たり四半期純利益	60.82円	10.77円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	12,945	2,659
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	445	445
(うち優先株主に帰属する金額) (百万円)	( 445)	( 445)
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	12,499	2,214
普通株式の期中平均株式数 (千株)	205,536	205,527

- (注) 1 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していない。  
 2 「会計方針の変更等」に記載のとおり、当第 1 四半期連結会計期間における会計方針の変更は遡及適用され、前第 1 四半期連結累計期間については遡及適用後の四半期連結財務諸表となっている。この結果、遡及適用を行う前と比べて、前第 1 四半期連結累計期間の 1 株当たり四半期純利益は、9円88銭減少している。

2 【その他】

該当事項なし

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年8月10日

北海道電力株式会社  
取締役会 御中

### 新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	藤原	明	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	白羽	龍三	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	藤森	允浩	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている北海道電力株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、北海道電力株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 強調事項

会計方針の変更に記載されているとおり、会社は、当第1四半期連結会計期間より、四半期連結財務諸表における税金費用の計算方法について、四半期会計期間を含む年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該実効税率を乗じて算定する方法から年度決算と同様の方法による税金費用の計算における簡便的な方法に変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。